

AWS Oracleコンピテンシー : 事例

S O M P O ひまわり生命保険株式会社 様

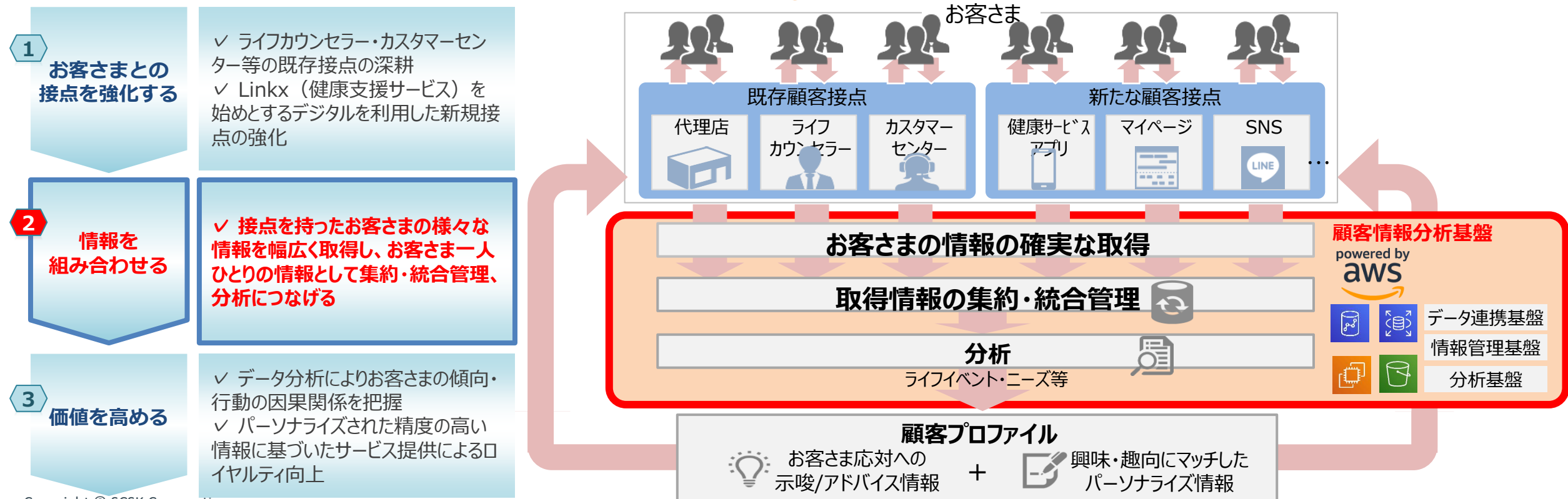
- ひまわり生命様の取り組みと案件の位置づけ
- 案件概要
- 案件内容 – プロジェクト背景
- 案件内容 – 提案内容
- 案件内容 – 結果
- システム構成図

ひまわり生命様の取り組み

- 生命保険のその先へ、お客さまが健康になることを応援する『**健康応援企業**』へ
- 健康サービスを通じて、お客さまに健康になっていただくことを目指す**新たな価値「Insurhealth®：インシュアヘルス（保険＋健康）※」**を提供
- 健康応援企業への変革を遂げ、お客さまとつながり、お客さまをより良く知り、お客さまへの提案力を高めるために、CXMに取り組む。

※出典：ひまわり生命様HP（<https://www.himawari-life.co.jp/company/>）

CXMの構築・運営のために、3つの取り組みを上げ、
当案件では「**[2]情報を組み合わせる**」ための“顧客情報分析基盤”を構築



➤ 顧客名

S O M P O ひまわり生命保険株式会社様

➤ 主に使用している製品

製品名	バージョン	ベンダ
Amazon Redshift		AWS社
Windows Server	2016	Microsoft社
SAS – SAS BI Server	9.4M6	SAS社
SAS – SAS/STAT	9.4M6	SAS社
SAS – SAS/ACCESS to Redshift	9.4M6	SAS社
SAS – SAS Enterprise Guide-15 users	7.15 HF6	SAS社
Oracle Database 12c (Amazon RDS for Oracle)	Standard Edition Two 12.2.0.1	Oracle社
Oracle Database Client	12.2.0.1.0	Oracle社
Oracle SQL Developer	18.3.0	Oracle社
SQL Workbench/J		

➤ プロジェクト開始/終了

2018年11月 ~ 2019年6月

➤ プロジェクト背景（顧客の現状と課題）

現行システムの課題

- ✓ 個々のお客さまを把握し、パーソナライズされた情報・サービスを提供するためには、業務部門ユーザーは、膨大なデータを分析し、その結果を参照する必要がある。
現行では、業務部門ユーザーが顧客情報を必要とする場合、情報管理者が、社内に散在・分断している各種データから必要な情報を抽出・提供していたため、業務部門ユーザー・情報管理者双方の業務効率の悪化、データ管理の負荷が大きくなっていた。
- ✓ 分析結果をより確かな情報とするためには、多くの分析用データが必要である。分析用の顧客情報は増え続けるものであるため、ストレージの拡張計画も必要である。オンプレミスで構築・運用する場合、構築初期時点で十分なサイズを用意するため、余分な費用や、追加拡張に伴う運用時の負荷が懸念される。

➤ 提案内容と使用したAWSサービス

提案内容

✓ 業務部門ユーザー利用するEUC環境の提供

EUC環境として、AWS上に新規の分析系システムとして“顧客情報分析基盤”を構築。
DWHとして、AWS上にAmazon Redshiftを構築、
分析ツールとして、SAS Enterprise Guide・SAS BI Serverを導入する。
また、AWS上に導入することで、各サーバやデータベースの可用性や耐久性を高める

✓ データ活用

各業務システムから、Amazon Redshiftにデータを連携し、業務部門ユーザー自ら、
SAS Enterprise Guideを利用してデータ抽出・加工・分析ができる環境を提供する。
データ活用としてインターネット経由で社外からのWebAPIを利用した業務利用を実現する。
可用性を担保するために、Amazon RDS for Oracle マルチ AZ 配置を利用した環境を提供する。

AWSサービス導入による効果

- ✓ コストについては、AWS上に導入することでスモールスタートが可能となり、アプリケーション開発開始までのリードタイムが最小化でき、イニシャル及びランニングコストがオンプレミスで運用する場合と比べて30%の削減が実現できた。さらに、継続的に分析用のデータの増加や、データ連携元システムが増える分析系基盤システムにおいて、AWSのデータベースサービスを利用することで将来のリソース不足に対する不安の軽減や、拡張作業、バージョンアップ作業などの運用業務の負荷削減効果も期待できる。
- ✓ 耐久性、可用性については、EBSやデータベースのバックアップ用ストレージとして、大容量のデータ格納が可能なAmazon S3を使用することで、将来10TB以上が見込まれるデータのバックアップについても、高い耐久性を獲得することができた。また、Amazon RDS for Oracleについては、業務利用にあたりAmazon RDS マルチ AZ 配置することで可用性を担保する。
- ✓ データの堅牢性について、オンプレミスの分析系システムでは実現できていなかったデータの暗号化について、AWS上ではデータ暗号化を実現した。サーバ、データベースにあるすべてのデータについてAWS KMSを用いてデータの暗号化を行い高いセキュリティレベルを獲得している。

システム構成図

